西大和つうしん

2012年　6月号

No. 360

那岐山へ：5月20日例会山行

奈良県勤労者山岳連盟

西大和山の会

西大和つうしん

第３６０号(2012年6月号)

【目　　次】

6月度山行計画…… 1
夏山山行計画…… 2
6月度・7月度カレンダー…… 3
自主山行　《4月28日》　丹波の山　向山(亀高)…… 4
自主山行　《4月30日》　鈴鹿の山　岩ヶ峰・釈迦が岳(杉村)…. 5
自主山行　《5月 1日～ 3日》　白山周辺の山　笈ヶ岳(藤本・辻)…… 6
自主山行　《5月 6日》　湖北の山　大谷山(内田)…… 11
自主山行　《5月 7日～ 8日》　北アルプス　燕岳(勝尾)…… 12
例会山行　《5月13日》　(県連搬出訓練)　千光寺付近(杉川)….. 14
記念山行　《5月18日～21日》　韓国・済州島　漢拏山(ﾊﾝﾗｻﾝ)(的場)　15
例会山行　《5月20日》　岡山鳥取県境　那岐山(田中初)…… 17
ｸﾘｰﾝﾊｲｸ　《5月27日》　(県連行事)　金剛山(玉越)…… 18
室内例会だより…… 19

６ 月 度 山 行 計 画

～ふるさとの山、展望の良い二上山から葛城山の高原を縦走します～

6月10日(日) 例会山行1：《二上山～葛城山》(L:杉村)

【集　合】道の駅「ふるさと公園當麻」 08:00

または　**JR 五位堂駅 07:40**(JR 王寺 7:18 発→JR 五位堂 7:31 着)

【コース】ふるさと公園當麻～二上山～竹ノ内峠～平石峠～岩橋山～葛城山～水越峠(歩程:6 時間 30 分・約 14.5km)

～秀峰近江富士の展望と、ザレ場の尾根を歩く～

6月17日(日) 例会山行 1：湖東の山《三上山》(近江富士) (L:高橋)

【集　合】JR 王寺駅 08:00(王寺 8:08 発→大阪 9:00 発→野洲 9:59 着)

【コース】野洲駅～(40min.)～登山口～(50)～▲三上山(432m)～(60)～古代峠～(70)～田中山～(50)～野洲駅(16:00 頃)

【帰着予定】王寺駅 18:00 頃(歩程:4 時間 30 分・約 12km)

～新緑も瑞々しい女人山上へ～

6月24日(日) 夏山訓練山行 ： 大峰の山《稲村ヶ岳》(L:藤本)

【集　合】上牧町役場前駐車場 06:30 発

【コース】山上ヶ岳登山口:清浄大橋(08:00)～レンゲ辻(10:30)～山上辻(11:30)～稲村ヶ岳(12:30/13:10)～山上辻(14:00)～法力峠(15:00)～母公堂(15:30)(歩程:6 時間 30 分・約 11.5km)

夏 山 山 行 計 画

～南アルプス南部の核心部の稜線を縦走する～

7月22日（日）～25 日（水）（予備日:26日）

例会山行1： 南アルプス《赤石岳～聖岳》（L:三島）

【コース】歩程計 31.3km

第1日:椹島～<1:25>～カンバ段～<2:35>～赤石小屋～<3:00>～赤石岳～<1:05>～百間平～<0:40>～百間洞山の家（泊）【8:45】

第2日:百間洞山の家～<1:05>～大沢岳～<0:40>～中盛丸山～<1:20>～兎岳～<1:55>～聖岳～<奥聖岳往復 0:40+1:55>～聖平（泊）【7:35】

第3日:聖平～<1:05>～滝見台～<1:25>～聖沢吊橋～<1:00>～聖岳登山口～<0:50>～椹島【4:20】

【アクセス】〔交通費:13,580×2=¥27,160（大阪市内発着）〕

〔往路〕7/22:新大阪 0730（ひかり 510）→静岡 0932/静岡駅前 0950→畑薙第一ダム 1315/畑薙第一ダム 1430→椹島 1530

〔復路〕7/25:椹島 1300→畑薙第一ダム 1400/畑薙第一ダム 1425→静岡駅前 1750/静岡 1811（ひかり 481）→新大阪 2003

【宿泊】椹島ロッヂ、百間洞山の家、県営聖平小屋（いずれも¥8,000）

※場合によっては、第一日目を赤石小屋まで、第二日目を百間洞山の家までとし、日程を1日加えて 26 日までとする。この場合、前日泊3泊4日になり、宿泊費が1日分増えます。

8月4日（土）～7日（火）例会山行１： 北アルプス《白馬岳》（L:島崎）

【行程概要】 8 月 4 日:さわやか信州号・新大阪　21:30（京都　22:30）

8 月 5 日:JR白馬駅　6:30　JR白馬駅から路線バスまたはタクシーで猿倉→白馬大雪渓→白馬山荘泊

8 月 6 日:白馬山荘→白馬岳→小蓮華山→白馬大池→蓮華温泉ロッジ泊

8 月 7 日:蓮華温泉ロッジ→タクシーにて大糸線、平岩駅　11:18→11:44 南小谷 12:04→白馬 12:22　さわやか信州号・白馬駅 13:40→大阪　21:50

基本は夜行バスですが、私は、前日に昼便のバスで、松本まで行って大糸線で白馬駅まで行き宿で泊まって、翌日JR白馬駅で合流しますのでもしおつきあいいただけるかたがあればご一緒しましょう

～雲上の楽園、雲の平から広大なカールの拡がる黒部五郎岳へ～

8月17日（金）～21 日（火）例会山行１：

北アルプス:雲の平～黒部五郎岳（L:藤井）

【コース概要】8 月 17 日（金）:大阪 20:30＝<夜行高速バス>＝

8 月 18 日（土）:富山 05:35＝<路線バス>＝折立～太郎平～薬師沢（泊）【歩程:7:30】

8 月 19 日（日）:薬師沢～雲の平～鷲羽岳～三俣山荘（泊）【7:50】

8 月 20 日（月）:三俣山荘～三俣蓮華岳～黒部五郎岳～太郎平（泊）【9:50】

8 月 21 日（火）:太郎平～折立 12:30＝<路線バス>＝富山 16:30 発＝<高速バス>＝大阪 22:00 着【3:30】

西大和山の会　カレンダー

６　月			７　月		
1	金		1	日	夏山訓練山行**釈迦ヶ岳**（島崎）
2	土		2	月	
3	日		3	火	県連理事会
4	月		4	水	
5	火	県連理事会	5	木	
6	水		6	金	
7	木		7	土	
8	金		8	日	例会山行 **小峠山**（杉村）
9	土		9	月	
10	日	例会山行 **二上山**（杉村）	10	火	
11	月		11	水	
12	火		12	木	
13	水		13	金	
14	木		14	土	
15	金		15	日	例会山行**仏隆寺・室生寺**（都築）
16	土		16	月	
17	日	例会山行 **三上山**（高橋）	17	火	
18	月		18	水	
19	火		19	木	
20	水	『西大和つうしん』原稿締切	20	金	
21	木		21	土	
22	金		22	日	**22日**『西大和つうしん』原稿締切 **22～26日** 例会山行 **赤石岳・聖岳**（三島）
23	土		23	月	
24	日	夏山訓練山行**稲村ヶ岳**（藤本）	24	火	
25	月		25	水	
26	火		26	木	
27	水	**室内例会**	27	金	
28	木		28	土	
29	金		29	日	**室内例会・暑気払い**
30	土		30	月	
			31	火	

自主山行

丹波の山　《向山》

【日 程】　２０１２年４月２８日（土）　天気 快晴
【参加者】　Ｌ島崎・三島・亀高
【コースタイム】水分れ公園Ｐ(8:55)～二の山(9:15)～三の山(9:40)～四の山(9:52)～向山569m(10:28)～五の山591m(10:50)～蛙子峰562m(昼食11:15-55)～清水山(12:15)～剣爾山(12:35-55)～天狗岩(13:05)～鳳翔寺(13:25)～水分れ公園Ｐ(13:35)

二度の雨天中止を経ての三度目の正直で、雲一つない快晴。ゴールデンウィーク初日ということで、宝塚トンネルを先頭に中国豊中まで渋滞し、登山口近くの水分れ公園Pに到着するのに3時間弱を要す。登り始めから3人をピンクのミツバツツジがお出迎え。二の山、三の山を経て四の山を過ぎる頃から左右はピンクから淡い黄緑色のヒカゲツツジ。清楚な美しさを醸し出している。花の盛りは若干過ぎており、内田さんが計画されたもとの22日頃が最良の見頃だったのだろう。深坂北峰を過ぎ、「ツツジが岡展望所」を経て向山(569m)に至る道は特に花が多く、登山道はまるでヒカゲツツジのトンネルのよう。
蛙子(ガエルコ)峰で早めの昼食。雲一つない快晴なれど、木漏れ日と涼風が心地よい。馬蹄形に連なる峰々のそこここに展望所があり、眺めが素晴らしい。特に剣爾山展望所からは、歩いてきた峰々の連なりが一望でき、新緑の山肌の所々を染めるミツバツツジや山桜のピンクが美しい。
最後の展望スポット・天狗岩からは、手前から鳳翔寺、水分れ公園駐車場、観音堂登山口まで一望できる。健脚3人組の歩みは軽く、休憩も多く取りながらも予定よりかなり早く、13時半過ぎには公園駐車場に到着。帰路は渋滞にも巻き込まれず16時前には上牧Pに帰還。
雲一つない快晴、木漏れ日と心地よい涼風、標識がよく整備された登山道、初めて出会ったヒカゲツツジ、3人だけではもったいないような山行でした。

（亀高）

自主山行

鈴鹿の山《岩ヶ峰～釈迦ヶ岳》

【日 程】 2012年4月30日（月） くもり
【参加者】CL　　島崎、SL 田中、田中初、杉村、玉越、杉川、亀高、阪口、的場
【コースタイム】栃谷駐車場（8:40）～北山（10:22）～岩ヶ峰(11:04/11:12)～コバ(11:22/11:50)～釈迦ヶ岳（12:18/12:25）～中峠（13:15/13:20）～八風峠(13:35/13:51)～栃谷 P 場（15:10）

栃谷 P より暫く歩き、川を渡ると植林帯の登山口に。今にも雨が降りそうな天候、ガスの中植林の急登が続く、小休を取りながらザレ場の峠へと出る。これからが岩混じりの本格的な登りとなる。テープ、踏み跡を探す事も、急登、岩場もあったが気が紛れる可憐なイワウチワ、イワカガミ、所々にショウジョウバカマ、バイカオウレン、キランソウそして今を盛りと咲いている沢山のアカヤシオ。道々に展開する可愛い花を観賞しながら進み、楽しい会話も弾み疲れを忘れさせてくれた。
程なく何もないピーク北山。そして岩尾根を進むと斜面にイワウチワの群生があり、一面と言っても大げさではない。これだけ多く見られるとは思ってもいなかった。
岩場などを越えて岩ガ峰にでる。アカヤシオの多い山道を10分程行くとコバにでる。ここで昼食をとる。
コバより最後の急登にロープを使って上ると県境尾根出合いに着く。今までとは一変、緩やかな稜線となりとても歩きやすい。中年男性が優雅に音楽を聴きながら食事中の横を通過する。
釈迦ガ岳山頂には、若い女性が別のコースから登って来ていてお花は殆ど見られなかった、との事。コースによって時期が異なるのかな。
僅かの休憩の後、軽いアップウダウンを繰り返し中峠へ。今までガスで全く展望がなかったがガスが流れ鈴鹿の町が見え、また山容も見えだした。右側にはもろくて崩れそうな砂岩、砂地で少々危険な様子。花崗岩から成っている釈迦ガ岳がわかる。
その後は下山、八風峠で休憩をとり何度か渡渉し P へ戻る。
花の宝庫を堪能させていただき有難うございましいた。

（杉村）

自主山行

白山周辺の山　《笈ヶ岳》

【日 程】　２０１２年５月1日（火）～３日（木）
【参加者】　Ｌ辻・藤本；他に埼玉県連「新座山の会」よりI.S.、Y.S.、N.K.
【コースタイム】
１日目（5/1）：白山一里野スキー場駐車場（6:59）～貯水池（7:52/08:01）～1058m地点（9:36）～山毛樺尾山（11:27/56）～1271m地点（13:32）～1312m地点（14:29）～1418m地点（15:41）～冬瓜平（16:10）
２日目（５/2）：冬瓜平（5:16）～シリタカ山北尾根1640m地点（6:39/44）～岩底谷ノ頭（7:45）～▲笈ヶ岳（8:30/50）～岩底谷ノ頭（9:15）～1640m地点（10:00）
以下事故対応経過：
☆10:05　T.F.肉離れで歩行困難となる。☆11:40　関西ツーリストのガイドH氏にヘリ要請の連絡を依頼し、T.F.以外の４名冬瓜平へ向け出発。☆13:00　冬瓜平着・テント一張りを撤収・T.F.の荷物等荷造り。☆13:55　K.T.＆I.S.の２名、テント・食糧とT.F.の装備等を担ぎ1640m地点へ向け出発。☆15:00　K.T.＆I.S.の２名、1640m地点到着。同時刻石川県警ヘリ飛来・旋回開始。☆15:45　T.F.ホイストにてヘリに収容・搬送。☆17:15　K.T.＆I.S.の２名、冬瓜平に帰着
３日目（５/3）：冬瓜平（6:30）～〈ジライ谷ルート〉～渡渉地点直前（12:00）～中宮温泉（13:15）～〈途中白山林道の車に乗せていただく〉～白山一里野スキー場駐車場（13:30）

第一部：１日目から２日目の事故とその顛末（藤本　記）

笈ヶ岳（おいずるがだけ、日本二百名山）は、山全体が猛烈な藪で、登山道もなく、残雪を利用してのみ登頂ができる山だ。また、深田久弥が百名山に入れようとしたが、自身が登頂しなかったため、やむなくはずしたと言われていることなどもあり、マニアックな登山者が近年多く訪れるようになっている。我々も、二年前に一度登頂を試みるが、あえなく撤退、昨年は天候不良のため中止、そして今回、三度目の挑戦となったわけである。

４月３０日夕刻に奈良を出発、その日のうちに石川県下、瀬女の道の駅に到着し、車中で一泊する。翌朝目覚めれば、懐かしい関東からのメンバーの顔が。久闊を叙し、握手を交す。そして出発。白山一里野スキー場の駐車場に車を置き、中宮発電所から山にとりつく。最初は発電所の送水管に沿った長い長い急階段をひたすら上る。テントや食料のギッシリつまったリュックが肩に食い込んでくる。高度差200

m以上の階段も半ばを過ぎるころから、カタクリの花が我々の目を楽しませてくれる。やがて階段が尽きたあとは、一面満開のカタクリのなかを歩むこととなる。芽吹いた若枝が我々の進路を阻むようになり、傾斜もいよいよ厳しくなってきたころ、最初の雪が現れる。この冬はずいぶんと雪山へ行ったものの、下りが極端に苦手な私はまだ雪中の下降に不安をぬぐいきれないでいた。登りは何とも思わないのだが、帰りにここを下るのかと思っただけで、気持ちは暗くなってしまうのだ。雪原に咲いた山桜の姿に歓声を上げながらも、鉛のような不安が心底に横たわっていた。

山毛榉尾山（ぶなおやま）への荒れたルートの急登を終え、1365mの山頂にて昼食休憩、行く手には明日のゴール笈ヶ岳がモノトーンの姿を見せている。ここからは、尾根を辿ってアップダウンを繰り返しながら、今日の幕営地、冬瓜平を目指す。連休も半ばということで、雪上には多くのトレースがあり、道に迷うことはない。ただ、ところどころ雪の消えたところは、跳ねる藪の枝を全体重をかけて踏みつけながら通過せねばならない。もし残雪がなければ、数倍の時間を要するだろうことを改めて実感する。

気温は決して低くはないので、大量の汗をかく。スポーツドリンクの入ったペットボトルに雪を入れて飲むと、冷たくてなんとも美味しい。その清涼感に気分もまぎれて、午後の行程をこなしていく。途中GPSの入力情報が誤っていた個所があり、「もうこんなに来たんだ！」と喜んだあとで、がっかり！という場面も。もうあとすこし、と皆、自身を励まして進んでいたが、道のりは遠かった。身も心も疲れ果てたころ、最後にかなりの急斜面をよじ登ってようやく冬瓜平に到着。

冬瓜平では、すぐにテント二張りを設営。雪を溶かして水を作り、早い食事の準備。一つのテントに５人が入って楽しい語らいのひととき。ラジオで天気予報を聴くと、明日は下り坂ではあるものの、本降りにはならないとのこと。万一朝から雨がすでに降っていたら、アタックはせず、ここから下山と決めて就寝する。

二日目は曇り、雨は降っていない。４時起床で５時過ぎの出発。荷物はアタックザックのみだが、歩き始めの歩調は重い。尾根に出るまでは、トラヴァースの連続で、デブリの多い雪崩多発地帯を抜けていく。やがて、冬瓜山～シリタカ山の尾根に向かって急登が始まる。ふたたびあの不安が襲う。ここを下れるだろうか？それに、昨日最後のあの急斜面のこともある。実は一晩中そのことが脳裏を離れず、夜半過ぎから一睡もできなかったのだ。そんな折のこと、かなり高度のある場所を我々はトラヴァースしていたのだが、そこよりもかなり低い場所に別のトレースが見えた。そちらの方が、尾根のより低いコルに通じているように見える。思わず「あっちのトレースの方がよいのでは・・・」と声をあげ、リーダーの指示も待たずに下り始めてしまった。新座のメンバー二人が、私に気を遣って同じく下降する•••。私は辻さんにほんとうに申し訳なく思いながら、そして、自身のこの行為に内心忸怩たるものを感じながらも、不安と恐怖感からこれを思いとどまることができなかった。それでも結局は尾根まではかなりの急勾配を攀じなければならなかった。またあの不安がつのる・・・。こうして、我々はシリタカ山北尾根1640m地点に到着したのである。

写真を撮ってしばし休憩の後、出発。ここからは一度急降下して再び富山県との県境尾根への急登となる。帰路の不安はあれ、これまでは全て登りだったが、今回

の山行で初めての急下降である。思わず足がすくむ。アキレス腱の固い私は、昔からつま先で歩く癖があり、実はかかとから蹴りこむという歩き方をしたことがなかった。悪い雪質のためアイゼンはつけられない。おそるおそる、例によってつま先から足を下ろそうとするが、今にも滑りそうで怖い。一歩間違えば、はるか下の谷底まで一気に滑落してしまうだろう・・・。こんな私の様子を見て、リーダーが私にこの場での待機を提案した。「助かった」というのが正直なところだった。

1640m地点に一人残った私は、対岸の尾根に豆粒のように見える４人をカメラで追いつつ、自ら招いたこの辱めをかみしめた。自分に対する腹いせといってもいい、４人が笈ヶ岳の山頂を踏んで帰ってくるまでの実に３時間余り、ずっと付近の斜面で、雪面の下降練習を重ねた。アキレス腱を伸ばし、かかとから雪面を蹴り込むようにして、初めは30°位の傾斜から、最終的には50°位までただひたすら登っては降り、登っては降りを続けた。すると不思議なほどうまくできたのである。確かに高度差はわずかだが、これまでとは全く違った安定した下降が！この尾根での３時間はもはや恥ではなく、まさに天啓と変わった。帰ってきた４人の目に映った私の顔は、予想外に明るかったはずだ。

気分も晴れ晴れとし、皆揃ってこれから出発。その時だった。私は右ふくらはぎに銃弾が当たったような衝撃を受けた。あとで分かったことだが、ふくらはぎの筋肉の部分的断裂だった。日頃使わなかったアキレス腱上部の筋肉を集中的に酷使したことによる「肉離れ」である。しばらく様子をみたが、痛みは治まらず、リーダーの判断で、ヘリによる救助要請となった。この後のことはリーダーである辻さんの記述に詳しい。

雨の降り出した尾根で、独り仲間を待つ時間の不安。もし途中で彼に（当初辻さん一人でテントや食料を尾根まで担ぎ上げることになっていた）何かあったら・・・この危惧がはたして、かようなリスクを冒して私を助けに来てくれる辻さんに対する心配よりも、そうなった場合の私自身のことをより多く懸念していなかったかどうか、堂々と言える自信はない。このような状況下に置かれた人間にとって、理性も矜持も決して期待できないことをつくづく思い知った魔の５時間だった。救助・搬送された日の夜、病院のベッドによこたわりつつ、この忌々しい心境を深く恥じた。そして、私のために下山できず、今も雨の山中にいるはずの４人の無事をひたすら祈った。

それに先立つ夕刻、病室で石川県警山岳救助隊長から事情聴取を受けた際、私たちが地元警察に計画書を提出していなかったことを、「なんとも残念なことだ」と繰り返しいわれた。プロとはいえ、あの危険な作業に携わる救助隊にとって、山行計画書の情報は何にもまして重要なよりどころであること、山へ行くものはこのことを忘れてはなるまい。さらにもう一つ、あの救助の際に学んだこと、それは、自分が救助を求めている人間その人であることをヘリに知らせるサインを知っていなければならないということ。今回最初にヘリが私の頭上に近づいた際、私はかぶっていた緑色のツエルトを頭上で大きく振り回してサインを送った。ややあって今度はマイクでの問いかけ。しかし爆音で全く聞き取れない。しばらくしてヘリは飛び去ってしまったのだ。そのあと一度幕営地の上空へ飛来、そこで待機していたメンバーにマイクで問いかけがあったというが、やはり内容は聞き取れなかったという。再度ヘリが現場へ飛来した際は辻さんが到着していて、適切なサインを送って

くださり、ようやく収容の手筈となった。気流の悪い危険な状況下での収容作業の様子は、以下に辻さんの記されているとおり。石川県警察山岳救助隊（実際に降下して私を収容・ホイスト）ならびに消防（ヘリの操縦）の方々の確かでかつ高度な技術に敬意を表するとともに、心底より深く感謝の言葉を申し上げたい。

当初、ヘリによる救援は翌日以降になる可能性が高いと考えていた。しかも天候は下り坂だったので（その悪天候下、あの北アルプス遭難事故が起こったのである）、場合によっては、２、３日をあの尾根で過ごす可能性もあった。それが、運よく当日中に救助・搬送が叶ったのは、ひとえに関西ツーリストのガイドH氏のおかげである。氏とその率いる俊足のパーティの協力がなければ、はるかに深刻な事態に陥っていたかもしれない。この場を借りて厚く御礼を申し上げる。

今回の山行では、三年越しの登頂成功にもかかわらず、私の精神的、技術的未熟さから、リーダーはじめメンバーの方々に大きなリスクと苦労を強いることになったこと、心からお詫びする次第である。しかも、本来なら残置されてしかるべき私の装備をひとつ残らず担ぎおろしていただいたこと、これについては、感謝の念を通り越してただ驚くばかりである。皆からここまで大切にしてもらった喜びは言葉には尽くせない。「これまで何度か、共に素晴らしい山を味わった絆は消えません。」帰宅後メンバーのおひとりからよせられたこの言葉に、登山という行為の素晴らしさをあらためてかみしめている。

第二部：２日目から３日目、事故対応と翌日の下山まで（辻　記）

二日目は5時20分に冬瓜平のテント場を出発。冬瓜山の斜面では雪崩跡や雪のブロックが散らばった雪崩の危険地帯があり、急いで通過する。

稜線に出て1,640m地点に着くと、笈ヶ岳が目の前に見えるが、山頂までの道は一旦急斜面を下らなければならない。こんな不安定な雪質の急斜面で、足を滑らすと致命傷だ。

この急斜面で藤本さんは不安を覚え、残念ながら笈ヶ岳を目の前にして登頂を断念し、ここで藤本さんは待機することになった。

残る4人は雪の急斜面を慎重に下り、トラバースを繰り返し、急登を掛け上がり、藪をもがきながら抜け、やっと待望の笈ヶ岳に到着。山頂からはダイナミックな残雪の白山をはじめ、遠くは北アルプスの山々の展望が素晴らしく、三年越しの登頂に喜び合い、一息を入れた後1,640m地点に急いで戻った。藤本さんは待っている間に斜面で下降練習を何度も繰り返していたと、笑顔で迎えてくれた。

そしてアクシデントはその直後に起こった。休憩を終えて出発となった時、藤本さんが立ち上がれなくなり、足の痛みを訴えた。最初は軽く足が吊った程度と思っていたが、10分経っても30分経っても痛みは治まらず、「この痛みは1日や2日で治まる痛みではない」と言ったので、その時点で警察に救助要請の判断をした。

しかし携帯電話が繋がらず、連絡方法をどうするかと思案していると、笈ヶ岳の下

山途中でツアーの一行と出会ったのを思い出し、その一行が戻ってくるまで待ち、そしてガイドさんに警察への救助要請の連絡をお願いした。救助を要請したものの、ヘリは今日中に来るのか、明日になるのか分からないので、1,640m地点でビバークするため一旦冬瓜平テント場に戻りテント・シュラフ・食料などビバークに必要なものをザックに詰め、再び1,640m地点に向った。

15時05分、1,640m 地点の急斜面を登っている途中なのに、エンジン音を響かせヘリが飛来して来た。まさか・・・こんなに早く救助に来てくれるとは思わなかったが、“助かった”という安堵の気持ちが込みあげ嬉しかった。急いで稜線に駆け登ったが気流が悪く、ヘリは何度も稜線に接近しょうとするがなかなか近づけない。ヘリの機体が悪い気流でバランスを崩し、不安定な姿勢で今にも稜線に叩きつけられるような状況になりながらも、悪戦苦闘の末15時45分に無事救助された。まさに石川県警の命がけの救助に頭が下がる思いだった。

ヘリの機影が消え、ホッとしたのも束の間、残った我々はこれからどう行動するのかが大きな課題だった。

まずは下山日が 1 日延びた事による食料の問題、そして藤本さんの残された荷物をどう担ぎ下すか、という不安だ。残雪のテント泊のため各自目一杯の荷物を持ち、減らせるのは食料しかないと言うことで予備食は乏しい状態だったが、みんなで分け合い何とかしのげた。問題は荷物だ。藤本さんからは「全部捨てて下さい」と聞いていたが、捨てるのは忍びず、高価な物から持てるだけ持つと決めた。

三日目の朝、4時起床で下山の準備をする。テントもフライも明け方の雨で濡れてズッシリと重い。男性陣はザックに詰めるだけ詰め、入りきれない物は捨てる覚悟だったが、その時女性陣が「少しなら入るよ」「私も少しなら持てるよ」と目一杯の自分たちの荷物があるのに協力してもらい、結局は全て残らず持ち帰る事になった。

途中で歩けなくなったら、その時は捨てよう・・・と皆で申し合わせて下山をはじめた。重いザックは肩に食い込み、バランスも悪くなり急斜面の下りは特に慎重になる。途中下山道を間違え、ジライ谷方面に下りている事に気付くが、登り返すのも辛く、また短時間で下山できるため急遽計画を変更し、ジライ谷を下りる事にした。

このジライ谷は藪漕ぎこそないものの、急峻な足場の悪い下りが連続しており、足を滑らせないよう注意して、なんとか中宮温泉に下山することが出来た。下山途中に携帯電話の通じるところで、藤本さんの奥さんと連絡が取れ、翌日にも退院できることを知り、安心した。

ふもとの一里野温泉で、三日間の汗を流しながら、笈ヶ岳に登れた達成感、無事救助されそして無事下山できた安堵感を味わいながらゆっくりと湯につかりました。

すばやく連絡してもらったガイドの方、危険を冒してまで救助してもらった石川県警の救助隊の方々、そして何よりも嬉しかったのは積極的に協力してもらった仲間の「絆」の暖かさ。それを強く感じた山行でした。

自主山行

湖北の山《大谷山》

【日　程】 2012 年 5 月 6 日(日)
【参加者】L　内田、島崎、藤井、玉越、坂口、高橋、亀高
【コースタイム】マキノピックランド 10:00→→石庭登山 10:20→→12:15 昼食場所 12:45→→大谷山山頂 13:10→→寒風峠 13:45→→さらさ温泉 15:05

週間天気ではじめから晴れ、殆ど雨を疑わなかったのに、湖北に近づくほど天気が悪くなり、弱い雨が･･･少し暗い気持ちで山行に臨みました。バスはマキノのメタセコヤの、並木道のマキノピックランドで下車、そこから 20 分ほどで、登山口、獣除けの網ぐりいよいよ山の中へ、弱いながらも雨模様の足場の悪いところを登って行きましたが、比較的登りやすい道に癒されながらも、晴れたり曇ったりに一喜一憂、お花はまだかまだかと待ちわびるようになりました。
そのうち、見え始めてきました。さすがに花の山、初めて見るイワウチワに感動紫のイカリソウはここの特徴のよう、カタクリも群生とはいきませんが、登山のあちこちに見られました。上のほうにはかなりの残雪が残り、下では見られない大きなミズナラの木もありました。
大谷山の山頂少し手前の見晴らしの良いところで食事休憩。ほどなく大谷山山頂、ここからは見晴らしのいい、笹原の尾根、寒風峠までもうひとのぼり、昼からは予想に反しからりと晴れ眼下に琵琶湖も、そして向こうに伊吹山も･･･寒風峠から下山する途中、昨年確認済みの、カタクリそしてイカリソウ、イワカガミ、気持ちのいいブナの新緑、今日も、滋賀山に魅了された、1 日でした。

（内田）

自主山行

北アルプス　《燕岳》

【日程】2012 年 5 月 7 日～5 月 8 日/　前夜発
【参加者】L辻・SL石田・三島・杉村・勝尾
【コースタイム】
【5／7】
中房温泉駐車場（6:40）～登山口（7:00）～第 1 ベンチ（7:35）～第 2 ベンチ（8:05）～第 3 ベンチ（8:50―アイゼン装着―9:05）～合戦小屋（10:20－10:45）～燕山荘（12:00－13:40）～燕岳（14:10）～燕山荘（15:00）
【5／8】
燕山荘（7:05）～合戦の頭（7:45）～合戦小屋（8:00）～第 3 ベンチ（8:40）～第 2 ベンチ（9:10－アイゼン着脱―9:25）～第 1 ベンチ（9:40）～中房温泉（10:15）
【5／6】
王寺 13:00 発、18:30 に豊科インター近くのロイヤルホストでさんと合流、食事を済ませ、安曇野松川の道の駅にてテントと車に別れて就寝する。車で寝るのは初めての経験だが以外と快適。ただ大きく寝返りを打った時の車の揺れに、スヤスヤと寝入っていたSさんが、地震と間違えてビックリして起きてしまったという事もあるので、車では静かに動かないと駄目な様です。
【5／7】
朝 4:30 起床。6:40 には中房温泉駐車場に着く。そこから 20 分歩くと、日帰り温泉の建物と立派なトイレがある登山口だ。熊笹の茂った針葉樹林の登山道を登る。第 1 ベンチ、第 2 ベンチ（この辺りから残雪が現れる）、第 3 ベンチ（ここでアイゼン装着）、合戦小屋と、皆、快調なペースだ。合戦小屋では 2、3 のグループの人達が、お湯を沸かしたりして寛いでいた。私達も中に入って軽食を取る。ここから稜線までは雪の壁の様なきつい登りだ。森林限界なのか、針葉樹林帯はここまでで、ダケカンバだけが所々立っている。稜線に出ると、北アルプス 3 大急登の一つ、合戦尾根の向こうに目指す燕山荘が見えた。稜線上は風も無く、雪質もアイゼンが良く利いて気持ちが良い。GW は荒天で遭難も出ていたが、この稜線も吹雪くと危ない所だと思う。小屋の手前の急登に苦しみながら、12:00 に燕山荘に到着。中で昼食を取りゆっくり寛いだ後、燕岳に登ろうと小屋の外にでると、残雪の槍ヶ岳が姿を現した。燕岳山頂での眺望は素晴らしかった。孤高の山槍ヶ岳、その稜線の奥に北穂に奥穂も見える。近くは常念、大天井岳。そして鷲羽、水晶、野口五郎岳。遠くに真っ白な双耳峰の鹿島槍と剣

岳も見える。残雪の北アルプス連峰が目の前にある。ここに自分が立てるなど思いもしなかったし、また好天に恵まれ、山頂にいるわずかな時間に、雪と氷と岩の厳しいが美しい姿を見せてくれた事に感謝、感激。槍を前に見ながら燕山荘へ下山。小屋に着いた時には小雪が舞い、山々は姿を消していた。

【5／8】

日の出を見ようと 4:30 に起床する。今は 4:45 が日の出の時刻。準備をして小屋の外に出ると、もう太陽が少し雲から顔を出していた。太陽が出る寸前の微妙なピンク色に染まる空を、見逃したのは残念だった。青空の中、朝日に輝く雪の槍ヶ岳。どっしりとした三角形の山容の燕岳も、岩と砂礫と雪の色の調和が美しい。思う存分展望を楽しんで、7:00 に槍に見送られながら、登りと同じルートを下山した。

（勝尾）

例会山行1（ハイカーのための救急・搬出訓練）

生駒の山　《千光寺付近》

【日　程】 2012 年 5 月 13 日（日）
【参加者】L　杉川、都築、田中、島崎、田中初、林、辻、杉村、玉越、高田

今回の救急搬出技術訓練は4月に行われた近畿ブロ搬出講習会の実習のような感じでした！講習を受けて感じたのは事故はどこでも起こりうるという事。二上山でも 3000 メートル級の山でも滑落もあれば転倒もある。ケガをすれば下山できないというのに変わりはない。だからこそ常に落ち着いて、状況を把握し、事故に対応しなければならない。その為の技術を学べるこのような講習会は非常に意義があると思う。今回も様々な事を学べました。例えばヘリによる救助にも色々と細かくルールがある。それらを知っておくだけでも救助をスムーズに行えると感じます。

この連休でも、北アルプスなどで低体温症による遭難が相次いで起こりました。奥穂などでも滑落事故が起こっていたそうです。非常に残念な事故です。しかし、例えば低体温症。状況にもよると思いますが、ツェルトなどをもっていれば皆で身を寄せる事ができたかもしれない。レスキューシートにくるまるだけでも違うでしょうし、カイロを常に忍ばせておけば血管の集まる所（脇や股）に当てるだけでも体温は上昇する。ある程度のセルフレスキューの知識があれば命までは失わなかったのかもと思いました。何よりも低気圧が並ぶあの荒れ模様では登らない勇気も必要だったと思います。

私もカイロの当て方などは講習会で教えて頂くまで知りませんでした。後から言うのは簡単なことですが、いつそういう事故が自分の身に起きるとは限らない。そのためにも真剣に学ぶべきだとさらに思いました。今回はザックと雨具による担ぎ法で担いで下山する実習もありました。なかなかバランスをとりながら降りるのは大変でした！軽い人を選んでもこの大変さ！私は担ぎ側であって一度も担いでもらえなかったので、ちょいウエイトを落とさねばと思わず思ってしまいました(笑)

登山をする上で私達に限って大丈夫、事故など起こらないなどとは思わず、常に背中合わせだと考え、セルフレスキューの技術、方法を学んでおけば、必ず役に立つとおもいます。

今回も講師の方々に感謝です！

（杉川）

西大和山の会30周年記念山行

済州島《ハンラ山 1950m》

[日程] 2012年5月19日(土)・曇
[参加者]5名　L島崎・藤井・阪口・今井・的場
[コースタイム]
登り－城板岳コース(東側)標高差 1200m
下り－観音寺コース(北側)標高差 1300m全行程 18 ㎞
城板岳登山口(7:45)～ソッパッ(9:03)～紗羅岳(9:50)～ツツジ畑(11:30)～昼食(11:35/12:00)～ハンラ山頂上(12:18/12:40)～三角峰(14:05)～耽羅谷(15:35)～クリン窟(16:20)～観音寺登山口(16:50)

関空から1時間30分ほどで午後7時ごろに済州島に到着。その日はホテルに近い焼肉店で、明日に備え焼肉を堪能致しました。翌日は午前6:30にホテルロビーに集合して、昨日と同じ焼肉店で朝食を済ませ、車で登山口まで移動。午前7時半ごろ登山口に到着。駐車場に登山者の自動車であろう、たくさん止まっている。

簡単に各自ストレッチをして出発。歩き始めは、ちょうど大台の登山道のようなクマザサやクヌギに似た自然林の中を歩く。整備された玄武岩の階段の登山道を歩くと、ユズリハもところどころにある。日本の登山人口は中高年が主流だが、ここでは年齢層がもう少し若い。そして、キムチパワーで元気なのか、彼らはどんどん私たちを追い抜いていく。遅い団体もあると思ったら、日本からのツアーの団体であった。埼玉、千葉、名古屋などから来られているようだ。会長、Fさんとも面識のある、当会Tさんの知り合いの団体の方との再会もあった。

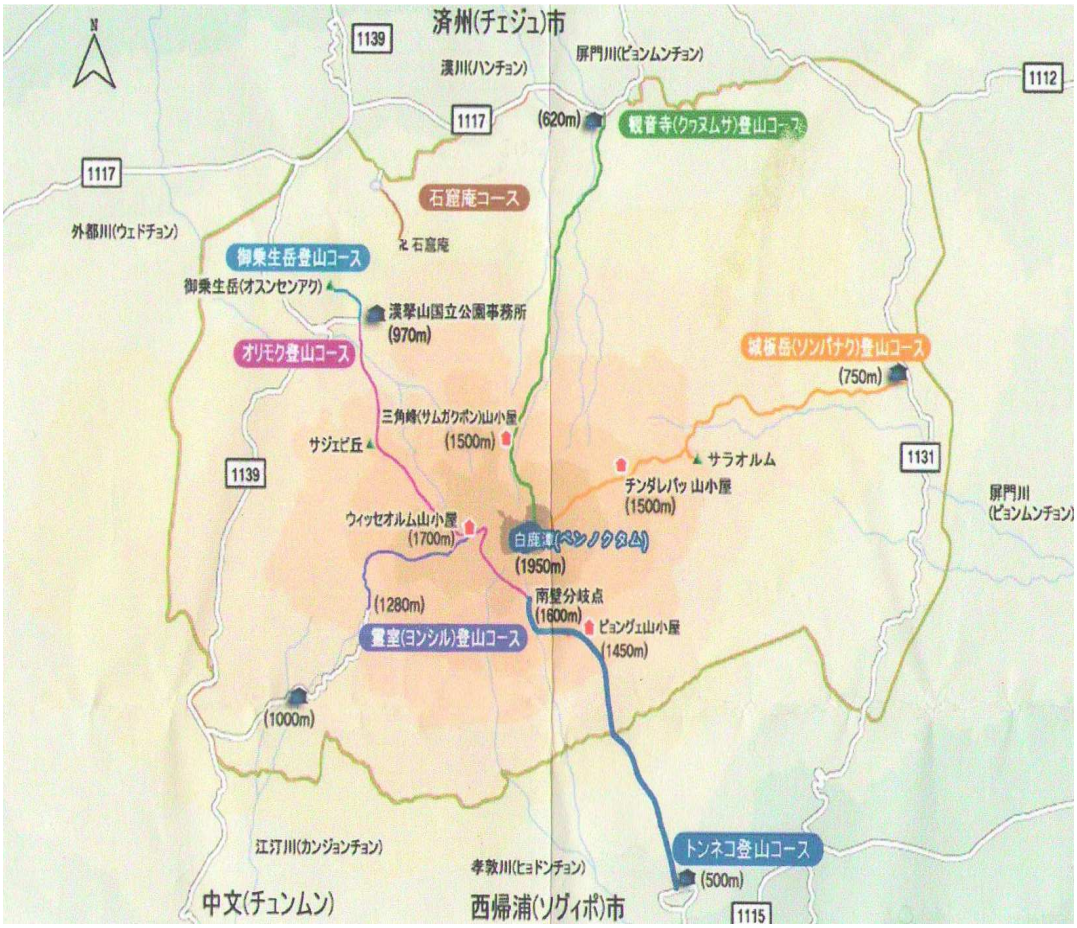
ツツジ畑までくると、木々も小さく、周囲も明るく頂上も見えてくる。あともう少しである。ツツジはもう遅く、若干花が残っているだけであった。ガイドさんも一緒に登ってきてくれましたが、私たちより2回りほど若いだけあって、ペースが早い。木道の階段を遅れまいと必死でついていくと、頂上まであと少しというところで、私の左足が痙攣してしまった。もう一人の、登山専門の男性ガイドの方に、ふくらはぎを揉んでもらたり、会長さんが日本から持ってきてくれた筋肉スプレーをかけてもらうと、急に痙攣が治まり、歩けるようになった。痙攣が起こった時はこのまま下山かと、一瞬不安がよぎったが、これでなんとか歩けそうであった。そこから少し歩いた広い登山道で、昼食になった。そこからの眺めは、ちょっと雲がかかっているが、ハンラ山の広い裾野が見渡せた。たくさ

んのオルム（小さな火山）が見えた。30分ほどで昼食を済ませ出発。頂上には十数分後に到着した。

頂上は人ひとでいっぱいで、昼食をとっている人もいる。そして次から次へと登ってくるので、移動するのも一苦労である。白鹿潭という池が火口に見えた。20分ほど休憩して観音道コースを下る。下山道は結構急で、登りとはまた全く違った岩山の景色をみながら下りていく。三角峰あたりから樹林帯を歩く。こんどは松林がたくさんあった。途中運動靴をはいた若い女性がいたが、ごつごつした玄武岩の階段を歩く姿は痛そうであった。下りはかなり長く、水のない川（渓谷）を見ながら、やっと登山口に着く。9時間弱の歩行時間、歩数は38,000歩程あった。

こんなに歩いたのは久しぶりで、明日またオルレハイキングで15㎞ほど歩くのに大丈夫かと心配もあったが、一番の目的であるハンラ山踏頂という達成感の方が強かった。観光地の山ということで、軽く見ていたがなかなかハードな山でした。秋の紅葉や冬の雪山も期待できそうな山でした。

4日間天気にも恵まれ、NANTA, 城山日出峰もよかったです。一緒に行った皆さん、具さん。コマスミダ(ありがとう)。（的場）



例会山行1

岡山・鳥取県境の山　《那岐山》

【日程】 2012 年 5 月 20 日　天気　曇り一時晴れ
【参加者】L田中（初）SL田中（悦）多賀　三島　林　辻　勝尾　杉村　内田　玉越　杉川　橋本　亀高
【コースタイム】P（9:00）～大神岩（10:00～1:17）～三角点（10:55）～津川山（11:20～11:50）～那岐山山頂（12:30～12:43）～A・B分岐（13:00）～黒滝分岐（13:37～14:00）～P（13:00）

車の渋滞もなく 9 時前に奈義町高円に着く。すでに沢山の車が駐車されていた。軽く準備体操の後出発。お天気もうす曇りでちょうど良い。

大神岩から三角点までは、美しい新緑の中を行く。登山道脇に　はスミレ、ニシキゴロモ、チゴユリ等の花々が･･･　三角点からは、日本原高原、鳥取県側の山並み、少し霞んでいるが素晴らしい大展望です。そこから、津川山まで笹原の縦走路は最高に気持良くこのまま、滝山まで行ってみたいそんな所です。津川山の東屋では大阪から来られた方々が、私たちが着くと場所を譲って下さいました。その方達とは抜いたり抜かれたりしながら下山しました。風が吹いて肌寒いので食事も早く済ませ再び縦走路を戻り、那岐山山頂まで行くと大勢の登山者がいました。人気のある山なのですね。ゆっくり休憩をしていると、いつの間にか登山者は数人だけ、私たちも下山するが少し下った所で、写真を撮った時に30周年のプレートも一緒に写すのを忘れた事に気付き、山頂に戻って撮り直す。

山頂から分岐をBコースへと下り、途中黒滝分岐で滝見物に立ち寄るが数人は行かないで休憩する。登山口まで下り、蛇淵の滝（道を間違え、リーダとして下調べをしておくべきでした反省しています）から駐車場へ無事到着。

少し霞んでいたが展望が素晴らしく、滝山からの縦走、イワウチワの咲く頃、また紅葉の頃もいいですね。

（田中初）

クリーンハイク

葛城・金剛の山　≪金剛山≫（1,125m）

【日　程】2012年　5月　27日（日）　快晴
【参加者】L林・SL多賀・島崎・都築・田中悦・田中初・藤井・村田・内田・高橋・玉越・的場・杉川・高田・亀高・一般参加５名
【コースタイム】北宇智駅（9:00）～久留野登山口（9:50）～山の神（10:35／10:45）～久留野峠（11:30／11:45）～伏見峠（12:15）～キャンプ場（12:20／13:10）～欽明水（13:25）～天ヶ滝（14:15／14:25）～登山口P（14:45）

北宇智駅で３人、久留野登山口で２人の一般参加の方々と合流した。頂いたドーナツを食べ、ゴミ袋と軍手・金バサミをそれぞれ持って出発。久留野林道を一列になって進む。斜面に落ちてしまっているゴミも、男性陣ができる範囲で拾いに行ってくださる。時折まとまって缶やペットボトル、割れた酒瓶が落ちている。グループで皆が捨てて行ったのか、ゴミがあるから他の人も安易に捨ててしまうのか…？

休憩した山の神から久留野峠までは、マムシソウやフタリシズカが咲く。マムシソウは秋の、あの毒々しい姿からは想像できない、凛としたさわやかな出で立ちに感動した。気温も上がり登りがしんどくなると足元ばかりに視線がいってゴミを見つけられない。ヘビがいたらしいがこれにも気が付かなかった！

お地蔵さんを過ぎるとなだらかな登り。光に透けるつつじが美しい。休憩ベンチの周りには、やはりお菓子の包み紙などのゴミが多い。自分も知らず知らずにでも、ゴミを落としてしまわないように気をつけようと思う。キャンプ場に着くと昼食。白いクリンソウが咲いていた。

下りは天ヶ滝道を降りる。途中小さい分岐では2手に分かれながら進む。登りよりこちらの方がゴミが多い。お菓子やパンの包み紙・ペットボトル、使い捨てカイロなどが落ちている。こんなところで使い“**捨て**”てはならない。天ヶ滝のしぶきに癒されて、登山口に下り着く。

拾ったゴミは、大漁22.7キロもありました。

（玉越）

室内例会だより

【日　時】2012年4月25日（水）19:30～21:00　事務所
【出席者】島崎、林、杉村、内田、三島、村田、藤本、多賀、田中(悦)、田中(初)、藤井、辻、勝尾、高橋、玉越、的場、杉川、橋本、今井、亀高、都築

1.　山行報告
　3月24日(土)　女性部山行　賀名生梅林　L勝尾　12名
　4月1日(日)　近畿ブロック搬出技術講習会　いかるがホール　L藤本　6名
　4月8日(日)　例会山行1　雪彦山　L辻　12名
　4月15日(日)　公開山行　中山連山　L田中(悦)　会員15名、一般8名
　4月19日(木)　自主山行　吉野山　L島崎　8名

2.　山行案内
　5月13日(日)　例会山行1　県連主催ハイカーのための救急搬出技術訓練　生駒山系千光寺付近　L杉川
　5月18日(金)～21日(月)　創立30周年記念海外登山　韓国済州島漢拏山　L島崎
　5月20日(日)　例会山行1　那岐山　L田中(初)
　5月27日(日)　県連主催クリーンハイク　金剛山（西大和）　L林

3.　連絡その他
　•県連より報告
　　奈良山友会が4月1日付けで県連を脱会
　　4月1日の近ブロ搬出講習会には全体で217名が参加
　　5月20日自然観察ハイク　野迫川村水ヶ峰周辺
　•7月29日(日)の暑気払いについては、OBを含めた懇親会を予定
　　場所は村田女性部長が担当
　•30周年記念文集の発行
　　2月で原稿を締め切り3月の総会に配布
　•会則の一部見直しを検討
　　文言の修正等
　•山行規定の一部見直しを検討
　　文言の一部見直しや車両規定（ガソリン代など）の見直し
　•30周年の記念のパネルを作成したのでこれからの山行に持って行き記念写真を撮る

（都築）

第 360 号（2012年 6 月号）

西大和つうしん

2012年 5 月 30 日発行

発行責任者　島崎　隆
編集責任者　藤本武司

奈良県勤労者山岳連盟　西大和山の会
http：//www.nishiyamatoyama.org/